

CFO ROUNDTABLE

CFO ROUNDTABLEとは、日本を代表する企業の現役CFOが集まり、CFOが直面する重要な経営課題に関し相互に意見交換を行い、議論を深め、情報発信をしいネットワークです。

●メンバー

- 青木昭一 京セラ 取締役 執行役員常務 経理財務本部長
 - 青砥修吾 商船三井 執行役員
 - 泉原雅人 宇部興産 執行役員 グループCFO 経営管理室長
 - 伊地知隆彦 トヨタ自動車 専務取締役
 - 上田良一 三菱商事 代表取締役 副社長執行役員 コーポレート担当役員 CFO
 - 上野山実 パナソニック 常務取締役
 - 内田 章 東レ 常務取締役 財務経理部門長
 - 小澤 雅 J.フロントリテイリング 執行役員 業務統括部 財務部長
 - 片山隆之 帝人 代表取締役副社長 CFO
 - 加藤和彦 富士通 執行役員専務 CFO
 - 川又洋伸 オリパス 取締役 執行役員
 - 河本雄二郎 三菱重工業 取締役常務執行役員
 - 木内秀行 THK 取締役 経営戦略室室長
 - 木下幸雄 住友重機械工業 代表取締役 執行役員副社長 CFO
 - 栗田優一 アドバンテス ト 取締役常務執行役員 管理担当
 - 黒澤成吉 清水建設 取締役 専務執行役員
 - 小林敏雄 日本電信電話 取締役 財務部門長
 - 民 政彦 住友スリーエム 取締役
 - 斎藤泰彦 信越化学工業 代表取締役副社長
 - 斎藤佳男 日本精工 執行役員常務 財務本部長
 - 佐藤 明 日産自動車 執行役員
 - 塩塚達也 エヌ・ティ・ティ・データ 取締役 常務執行役員 財務部長
 - 清水敏邦 スカパー・JSAT 執行役員常務 管理本部 本部長代行
 - 田中邦行 伊藤忠商事 代表取締役 専務執行役員 CFO
 - 田頭秀雄 積水化学工業 常務執行役員 経営管理担当
 - 高野博勝 鹿島建設 執行役員 財務本部本部長
 - 高橋 勝 日本写真印刷 取締役 常務執行役員 管理部門担当
 - 高橋昭男 明治製菓 代表取締役副社長
 - 高原 宏 武田薬品工業 コーポレートオフィサー 経理部長
 - 滝井道治 住友金属工業 取締役 専務執行役員
 - 田田啓一 日立化成工業 執行役員副社長 取締役
 - 只藤博隆 エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ 常務取締役
 - 田中秀典 サッポロホールディングス 取締役 経理部長
 - 千地耕造 サントリーホールディングス 執行役員 経理本部長
 - 千葉清一 イオン 執行役員
 - 坪内和人 エヌ・ティ・ティ・ドコモ 取締役 常務執行役員 財務部長
 - 長井 進 カゴメ 執行役員 広報 IR 部長
 - 中村 隆 ニチレイ 取締役執行役員
 - 野崎邦夫 住友化学 常務執行役員
 - 野村勝明 シャープ 執行役員 経理本部長
 - 橋本勝則 デュボン 取締役常務執行役員
 - 浜田豊作 住友商事 代表取締役 専務執行役員 CFO
 - 原田康彦 資生堂 取締役 執行役員専務
 - 平田邦夫 三菱総合研究所 執行役員 経理財務部長
 - 藤野 隆 旭硝子 常務執行役員 CFO 兼 社長室長
 - 藤原孝二 旭化成 常務執行役員
 - 北條陽一 本田技研工業 取締役 事業管理本部長
 - 松本順一 三井物産 代表取締役副社長執行役員 CFO
 - 丸田秀実 セイノーホールディングス 取締役 経理部・財務 IR 部担当
 - 三井田 實 日本通運 取締役 常務執行役員
 - 三田慎一 花王 取締役 執行役員
 - 宮崎俊郎 三井造船 取締役 経理・財務担当及び IR・広報室担当
 - 宮崎秀樹 日本たばこ産業 常務執行役員 財務責任者
 - 山田清孝 昭和シェル石油 執行役員 経理財務統括部長
 - 横山之雄 日清食品ホールディングス 取締役・CFO
- 世話人
荒木隆司 あいおい損害保険 取締役会長
泉谷 裕 元村田製作所 代表取締役副社長
伊藤一郎 旭化成 代表取締役 会長
伊藤達一郎 元住友電気工業 代表取締役副社長
川上徹也 パナソニック パナソニック経営大学 学長
島崎憲明 住友商事 特別顧問
関 哲夫 商工組合中央金庫 代表取締役社長
藤井卓也 プロモントリー・フィナンシャル・ジャパン 代表取締役社長
藤田純孝 伊藤忠商事 相談役
- 顧問
金児 昭 信越化学工業 顧問
- 2010年11月30日現在(敬称略:各50音順)



グローバル時代のスキルセット
FASS ベーシック検定教材・好評発売中!

お求めは www.cfo.jp/fass

FASS Basic 公式テキスト 財務会計



- IFRSに準拠!**
- [Part1] IFRSs の基礎概念
 - [Part2] IFRSs の主要論点
 - [Part3] 企業集団に関する IFRSs
 - [Part4] 財務諸表分析

定価: 3,500 円 (税抜)

FASS Basic 公式テキスト 経営会計



- [Part1] 原価管理
- [Part2] 予算管理
- [Part3] 業績評価
- [Part4] 短期的意思決定分析
- [Part5] 長期的意思決定分析
- [Part6] 資本コストの推定と企業価値評価

定価: 3,000 円 (税抜)

FASS Basic 公式テキスト 財務モデリング



- [Part1] 財務モデリングの基本
- [Part2] 財務モデリングの基本指針
- [Part3] EXCEL の基本技法
- [Part4] EXCEL の応用技法
- [Part5] ビジネス・ロジック
— 一般数値処理
- [Part6] ビジネス・ロジック
— 会社計数関連
- [Part7] ビジネス・ロジック
— ファイナンス関連

定価: 2,500 円 (税抜)



CFOラウンドテーブル

日本を代表する先進企業のCFO限定で開催しているCFOラウンドテーブル。九月二日、金融庁総務企画局参事官の池田唯一氏をお迎えし、「会計・ディスクロージャーをめぐる課題」をテーマに経団連会館(東京千代田区)で開催しました。

IFRS強制適用の時期や適用の範囲など、会計の国際化はCFOにとって最も関心の高いテーマです。九〇年台後半に始まった日本の会計不信、いわゆる「レジェンド問題」に始まった我が国の会計国際化の流れを鳥瞰したうえで、現在のIFRSがどのような方向に向かっていているのか、そして日本としてどのような点を考慮していかな

ければならないのかなど、これまで会計の国際化について長く金融庁で担当してこられた経験を踏まえ、率直に解説いただきました。元住友電気工業副社長の伊藤進一郎氏の進行のもと、参加メンバーからは、「強制適用の時期をできれば早く決定してほしい」といった意見や「日本としての会計原則や概念フレームワークを構築することも重要ではないのか」といった多岐にわたる意見が相次ぎました。

IFRSをはじめとした会計国際化の問題については、今後も定期的にCFOラウンドテーブルで議論を深めていく予定です。

FASSフォーラム・ベトナム

昨年引き続き、ベトナムCFO協会と共催で十一月二四日にハノイのメリア・ハノイ・ホテルでFASSフォーラム・ベトナムを開催しました。今年は「激動の金融情勢に挑む



アジアのCFO」をテーマとし、計画投資省の高官をはじめベトナム企業のCFOや日本企業の現地法人の幹部など総勢約一八〇名が参加しました。増加する公的債務、貿易赤字など課題も多くインフレの安定を目指すベトナムですが、一方で海外や政府の投資を中心に経済成長率は高い水準にあります。CFOが今後どのような役割を果たさねばならないか、昨年以上に関心が高まっています。翌日の新聞「ベトナム・ニュース」には、日本CFO協会専務理事山口宏のコメントが掲載されました。また、元セガサミーホールディングス社長、元セガサミーホールディングス氏、CFOの役割とコーポレートガバナンスについて講演を行いました。

ベトナムでは既にベトナム版のFASS検定を試験的に実施してきましたが、来年度からは計画投資省の支援を背景に本格的に実施することが予定されています。FASS検定のアジア展開の第一歩として他のアジア各国のCFO協会も注目しています。

AFP年次総会 参加報告

遠藤裕明

日本CFO協会主任研究委員

日時：2010年11月7日～10日

場所：サンアントニオ(米国・テキサス州)

今年で三二回目を数えるAFP年次総会は、テキサス州のサンアントニオで開催された。日本では比較的馴染みの薄いサンアントニオも全米で第七位の人口で成長速度では第三位を誇っている都市である。

今年の基調講演者はライス元国務長官。これまで、パウエル氏やオルブライト氏といった元国務長官が基調講演に選ばれている。現在、スタンフォード大学の教授を務める傍ら執筆活動も行っているライスは元国務長官としての立場から、国際政治、グローバル経済、そしてアメリカはどうすべきかを理知的に語り、みんなで力を合わせればきっと強く立ち上がっていくというポジティブなメッセージを送った。講演概要を簡単に紹介する。

今日のニュースヘッドラインと歴史上の評価が同じであることはほとんどない。ニュースで大事のように語られ

ることの多くは、間違っていたり大きさに取り上げられているために、長期的に重要なことをそれらのノイズから一歩引いて考え、対応することが肝要だ。重要なのはパニックに陥らないこと。ワシントンでは、とかく「核攻撃だ！」となってしまうがちだが、まずは深呼吸してよく考えることだ。ほとんどの場合なんでもないことであることが多い。

国防に目を転じると、目下のリスクはパキスタンだ。パキスタン国内の崩壊した地域にテロリストが生まれ、これが国境を越えてアフガニスタンに侵入、テロリストの根城になっている。その地域を飛行してみれば分かるが、非常に入り組んだ山岳地帯であり、隠れ家としては最適で、これと対抗するのは非常に難しい。

グローバルな経済・金融システムを振り返ってみる。二〇〇八年の危機は甚大で、パワーバランスを変えるに足るものであった。特にヨーロッパには厳しかった。もともとユーロというシステムは、さまざまな難しい前提を組み合わせて成り立っていたわけだが、金融危機という状況の中で矛盾点が露呈した。単一通貨であるために個別の金融政策を取れず、財政収支の均衡を図るのが難しいことや、労働力などリソースの移動が、言語や地域の違いによって実際には行われないことなどが大きな不均衡を生んだ。そのため、ユーロ圏の成長は今後も弱いと思われるし、債務問題の解決にも時間を要するだろう。ロシアは資源に非常に依存した経済

で、石油・天然ガス市場がよいときはよいが、下がるとすぐに悪くなるのでかなり努力が必要だ。BRICsというが、ロシアはこの枠組みには入らないと思っている。BRICsでよい。ブラジルは経済の活力があるが、中南米圏の大国の域を出ない。インドも今後大国になっていく潜在性はあるが、この国でビジネスをするのは非常に難しい。時間がかかるだろう。

今日のグローバル経済において、中国はいつかアメリカを追い抜いて、世界第一位の超大国になるのだろうか？そうは思わない。グーグルを検閲するような国で自由なイノベーションは起らないと思う。アメリカは、経済が大きくなりすぎて自ら失敗した。巨額の財政赤字も、対策を打たないといつかこれが大問題となる。アメリカ自身が国内の問題を対処しなければ、今までの成功をもたらしてきたモデルが崩壊してしまう。問題は他国ではなく、自国内にある。アメリカ経済がその力強さを取り戻すためには、民間経済が活力を取り戻すことである。そのため、税率の引き下げ、規制緩和、自由貿易の推進が重要である。サーベイでは、六五%の人が自由貿易はアメリカの利益にならないと考えているとのことだが、これは間違っている。自由貿易こそ推進されなければならない。

スピーチが終わると、ライスは盛大なスタンディング・オベーションをもって見送られた。AFPの年次総会の参加人数は、前年比三割増程度での五、〇〇〇人であり、例年と遜色ない規模となったが、金融危機後の昨年の落ち込みの大きさがあらためて浮き彫りとなった。AFPはグローバルカンファレンスを今年初めてロンドンで開催するなど、グローバル化を進めている。今年度の年次大会にも日本を含めて世界二二カ国からの参加があったという。

その他、FRBのダラス連銀総裁でFOMCメンバーのリチャード・フィッシャー氏、FRBの元副議長のアラン・ブラインダー氏といった中央銀行の要人の講演も聴くことができた。経済は緩やかな回復過程にあるが、その成長率は雇用増加するには不十分という認識のもとで量的緩和の第二段を決定したが、その効果や副作用についての懸念も多くあったことや、長期的な財政赤字問題はあるものの、それ故に短期的に必要な財政政策まで放棄すべきではないことなど、現在のアメリカが抱えている問題や今後の課題について個人的なものも含めての意見を聞くことができたのは貴重な経験であった。

他にも、ベストセラー作家のマルコム・グラッドウェルのスピーチや、過去十年で四回優勝したNBAチーム、スパーズのスタジアムでのレセプション、ビル・コスビー・シヨウなど、他では容易に見られないイベントが目白押しだった。

来年のイベントは、ボストンである。今後どのようなセッションやスピーカー、イベントに出会えるか分からないが、「一生に一度の経験ができるかもしれない」と、期待に胸が弾む。来年もぜひ参加したいし、日本の多くの会員と分かち合えればと、切に願う。

